

大学生と農山漁村との連携事例



流通科学大学

実施主体名：小野市・トマト甘酒プロジェクト

担当窓口

人間社会学部観光学科西村ゼミ

URL

<https://www.umds.ac.jp/250421/>



活動内容

兵庫県小野市と連携し、特産品トマトの高付加価値化を目的に、学生主体で「トマト甘酒」を開発した。学生は農家や事業者へのヒアリングなどのフィールドワークを通じて地域資源と課題を調査し、トマトと発酵食品である甘酒を組み合わせた商品を企画した。試作やパッケージ、販売企画まで学生が関わり、空港での試飲販売やイベントでの販売実験も実施した。地域農産物の認知向上と販路開拓につながるとともに、学生が地域課題の解決に実践的に取り組む学びの機会となっている。



きっかけ

きっかけは、小野市の「うまいもんブランド」事業のフィールドワークである。学生がトマト生産の現場を調査する中で、規格外トマトなど未利用品の活用が課題となっていることが明らかになった。そこで、地域資源を有効活用する商品として、発酵食品と組み合わせた「トマト甘酒」の開発に取り組むこととなった。



展望

今後は、トマト甘酒の継続的な商品化と販路拡大を図り、小野市の特産品としてのブランド化を目指す。また、地域農産物と発酵技術を組み合わせた新たな商品開発にも展開し、農業の付加価値向上と地域活性化につなげていく。さらに、大学生の実践的な学びの場として継続し、地域と連携した人材育成モデルとして発展させていく。



(フィールドワークの様子)



(トマトの定植)



(伊丹空港にて試飲販売会)



(完成した商品)